

EUSI メールマガジン Vol. 078
「ノルマンディーの片田舎で」(石見徹)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 060】

「ノルマンディーの片田舎で」

石見徹 (東京大学名誉教授、流通経済大学経済学部教授)

あるフランス人から聞いた話である。名前はカトリーヌとしておこう。彼女のおばあちゃんはノルマンディー地方で小さな店を持っていた。第一次大戦に従軍した主人は結核を患って復員してきたが、早死にしてしまった。だが息子が一人残された。息子を育てるのに、食料品や日常の雑貨を商いながら、つつましく暮らしていたという。つつましくといっても、家は大きかった。二階建てな上にいくつもの部屋があり、息子の他に母親、つまりカトリーヌの曾祖母と住み込みのお手伝いさんも、合わせて四人が一緒に住んでいた。

ほどなくして、また次の戦争がはじまり、ドイツ軍が進駐してきた。軍は多数の兵士を駐屯させるだけの場所が用意できないので、民家にも分宿させることにした。フランス人住民を監視するねらいがあったのかもしれない。祖母の家は広さだけは十分にあったので、二・三人の兵士が割り当てられた。しかし家には、若い兵士たちと同年輩の息子がいたのである。

ドイツ軍が来るのと前後して、この地方でも若い男は徴用に駆り出されていた。遠くドイツにまで連れていかれ、農場や工事現場で働かされているとのことだったが、実はノルマンディー現地の海岸の辺りで、防衛線を築くのに酷使されているという噂も聞こえてきた。いずれにしろ、戻ってくる男はまずいなかった。主人は戦病死したが、たった一人残った息子だけは、何としても失いたくはなかった。この心情はよくわかる。そこで考えついたのは、息子をかまくまうことだった。裏通りに面した納戸から上る二階は、母の寝室を通らないかぎりたどり着けないので、隠れ場所にはちょうどいい。こうして息子の引きこもり生活が始まった。

「引きこもり」という言葉を使うと、少し正確ではないかもしれないが、『アンネの日記』にあるように、息をのむような緊張や切迫感があったわけではない。それは間違いない。母は息子が運動不足になることを気遣って、夜の帳が下ると戸外に連れ出し、散歩させることまでした。ドイツ兵たちは、ふだんは見かけない誰かが住んでいることを分かっていたはずだが、何も言わなかった。村の人たちに、徴用を逃れた男がいることを知られるのもまずいが、黙っていてくれるのはありがたい。こうしてドイツ兵との奇妙な同居生活がしばらく続いた。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol60.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. EUSI Workshop「EU 移民法の行方: ドイツとヨーロッパへの難民流入を受けて」

日時: 2015年10月5日(月) 16:30-18:00

場所: 一橋大学 国立東キャンパス マーキュリータワー5階 EUSI 会議室

「EU 移民法の行方: ドイツとヨーロッパへの難民流入を受けて」

"The Legal Management of Migration in Germany and Europe"

ダニエル・ティム教授 (ドイツ・コンスタンツ大学)

司会: 中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 所長)

言語: 英語

参加: 参加ご希望の方は、10月1日(木)までに、1. 氏名、2. 所属、3. どうやってこのワークショップを知ったかを、info@eusi.jp宛にご連絡ください。

なお、座席に余裕があれば、当日参加も可能です。

<http://eusi.jp/outreach/2015-1005/>

【EU に関するニュース】

- 2015年9月1日 Eurostat、7月失業率(季節調整済)はユーロ圏 19カ国 10.9%、EU28カ国 9.5%で共に前月比減
- 2015年9月1日 英政府、国民投票文言を「英は EU 加盟国として残留すべきか、EU を離脱すべきか？」に変更
- 2015年9月2-9日 第72回ベネチア国際映画祭、EU 助成の5作品出展。うち仏映画「L'Hermine」が男優賞受賞
- 2015年9月2日 欧州委員会、「世界人道サミットに向けて 効果的な人道支援のための世界的連携」文書採択
- 2015年9月2日 欧州委員会、英蘭系石油大手 Royal Dutch Shell 社による英天然ガス BG グループ買収を承認
- 2015年9月2日 トルコ南西部ボドルムの海岸で、3歳のシリア難民男児アイラン・クルディ君の遺体発見
- 2015年9月3日 ECB 理事会、政策金利据置き、公的部門1銘柄購入上限を33%に引上げ、インフレ低下を警戒
- 2015年9月3日 Eurostat、7月小売売上高(季節調整済)はユーロ圏 19カ国で前月比+0.4%、EU28カ国同+0.3%
- 2015年9月4日 欧州委員会、2013年 EU 全体の付加価値税(VAT)収入損失額は1680億ユーロ、税収見込額の15%
- 2015年9月4日 UNHCR グテレス高等弁務官、EU 難民危機に対し早急な対策や不法業者取締など6つの争点声明
- 2015年9月7日 欧州委員会、エボラ出血熱の子供救済のため「EU の平和の子供」枠組下で100万ユーロ支援
- 2015年9月7日 欧州委員会、酪農業の現金流量や市場安定化等の対策で5億ユーロ規模の包括的支援策発表
- 2015年9月7日 EU・中国研究・イノベーション協力共同基金メカニズム創設。毎年1億ユーロ・2億元規模
- 2015年9月7日 欧州銀行監督機構(EBA)、年収100万ユーロ超高額報酬銀行員は2013年3178名で前年比11%減
- 2015年9月7日 メルケル独首相、来年度予算に難民支援60億ユーロ分追加を表明
- 2015年9月8日 欧州委員会、米 GE 社による仏アルストム社のエネルギー事業部門の買収を条件付で承認
- 2015年9月8日 Eurostat、4-6月実質 GDP(改定値)はユーロ圏 19カ国で前期比+0.4%、EU28カ国で同+0.4%
- 2015年9月9日 ユンカー委員長、欧州議会で一般教書演説。難民危機やギリシャ支援やウクライナ危機など

- 2015年9月9日 欧州委員会、移民・難民保護のための包括的提案。12万人のEU加盟国受入割当や送還政策等
- 2015年9月9-11日 ソウル防衛対話(SDD)、日本やEU・NATO等33か国・4機関参加。戦後70年や信頼醸成等協議
- 2015年9月9-11日 ASEMユーラシア交通輸送ネットワークシンポジウム、ソウルで開催。両地域の接続強化
- 2015年9月11日 EU・露エネルギー閣僚会議。冬季のEU・ウクライナ向けガス供給に向けて必要な行動協議
- 2015年9月11日 EU・中国移民移動支援計画の一環として、観光業経営講習ワークショップを広州で開催
- 2015年9月11日 トゥスク議長・ユンカー委員長、同日のシンガポール総選挙の李顯龍首相再任に歓迎声明
- 2015年9月12日 英労働党臨時党大会、反緊縮の左派J・コービン下院議員が59.5%得票、新党首に選出
- 2015年9月14日 EU理事会、ウクライナ危機に関する制裁措置を半年間延長。149名個人と37団体・企業対象
- 2015年9月14日 EU理事会、地中海EU海軍部隊(EUNAVFOR MED)作戦の第1段階目標達成、第2段階へ移行方針
- 2015年9月14日 EU司法・内務理事会、伊及びギリシャに対し移民・難民の暫定移住メカニズムの支援決定
- 2015年9月14日 Eurostat、7月鉱工業生産(季節調整済)はユーロ圏19カ国前月比+0.6%、EU28カ国同+0.3%
- 2015年9月14-16日 バーシュボウ NATO事務次長来日、日・NATOセミナー講演や杉山外務審議官と協議
- 2015年9月14-18日 日・EU EPA交渉第12回会合、東京で開催。貿易・知財・非関税障壁・政府調達等協議
- 2015年9月15日 第8回EU・韓国定期首脳協議、ソウルで開催。両者間の協力深化や北朝鮮・中東情勢等協議
- 2015年9月15日 欧州対外国境管理協力機関(FRONTEX)、8月のEUへの移民・難民流入は15万6千人と過去最高
- 2015年9月15日 EU及びボスニア・ヘルツェゴビナ、EU危機管理軍事・文民作戦参加に関する枠組協定調印
- 2015年9月15日 モグリニ上級代表、国際民主主義デーに寄せ、EUの民主主義への取組に関する声明発表
- 2015年9月15日 Eurostat、7月貿易収支(速報値)はユーロ圏19カ国314億、EU28カ国129億ユーロで共に黒字
- 2015年9月15日 英ICM社世論調査発表、英のEU残留是非に関して、残留43%、離脱40%
- 2015年9月15日 ハンガリー、移民・難民流入阻止のためセルビアとの国境封鎖。難民申請却下・強制送還
- 2015年9月15-16日 EU・中国社会的保護改革計画(SPRP)始動。ハイレベルフォーラムを北京で開催

【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、東京大学名誉教授で現在流通経済大学経済学部教授の石見徹先生に執筆いただきました。

淡々とした筆致の中に戦争の悲惨さや独仏の関係などが浮かび上がっています。

このような話は、おそらくノルマンディーに限らず、フランスのあちらこちら

に残っているものと思われます。

第二次大戦後の独仏和解の上に立った欧州統合の出発と歩み、冷戦終結による

東西ドイツの統一とユーロの発足などを考えると、次から次へと難問が噴出

する欧州においては、やはり独仏二大国のリーダーシップが不可欠のもの

と言わざるを得ません。

石見先生には、今年の3月にEUSIが主催したユーロ問題に関するシンポジウム

においても、「International Monetary System Revisited 20 Years Later」

と題する英語による特別講演をしていただきました。

また、先生の最近書かれたものの中には、先進諸国と新興諸国の双方に目配り

をしながら、金融、成長、格差など幅広い視点に立ち、かつ歴史を踏まえた

より長いスパンで世界経済の構造を分析した「現代の世界経済が直面する課題

について」(『経済学論集』第79巻第4号、2014年1月)という大変内容の濃い

論文があります。興味のある方はぜひお読み下さい。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン 編集担当)

EU が顕彰する賞として最も有名なものといえば、欧州議会による「サハロフ賞」でしょうか。これは、人権や思想の自由を守るために献身的な活動をしてきた EU 域外の個人や団体に贈られる世界で最も名誉ある賞の一つであり、共産主義体制下のソ連で人権・民主化運動の闘志として活躍した物理学者アンドレイ・サハロフ博士の名を冠した賞です。実際にネルソン・マンデラや、アウンサン スーチーさんや、パキスタンの女性教育普及に尽力するマララさんのように、ノーベル平和賞を後に受賞する方も多く、先取りする形で選出されています。そしてもう一つ、EU に関連する有名な賞としては、「ヨーロッパの本」賞(Le Prix du Livre Européen)という賞があります。これは、EU を欧州全体の文化的な総体としてより良い理解を深めるのに貢献した著作を顕彰するものであり、パリを拠点とする文化団体「Esprit d'Europe」によって運営されています。ローマ条約 50 周年に当たる 2007 年に第 1 回が開催されましたが、日本でも馴染みのある著作としては、トニー・ジャッド教授による大著『ヨーロッパ戦後史』が、第 2 回(2008 年)「ヨーロッパの本」賞を受賞しています。また昨年には、ロンドン大学政治経済学院(LSE)元学長で、世界的な社会学者であるアンソニー・ギデنز著『Turbulent and Mighty Continent』に贈られました。この受賞作が、来月上旬岩波書店より邦訳として刊行されます。ユーロ危機や難民危機、エネルギー問題、反緊縮や反移民、そして湧き上がる欧州懐疑主義など、欧州はいまだかつてない数多くの困難に直面しています。その中で、EU がいかにして更なる統合に向けたモメンタムを形成してゆくか、その変革のための多くの貴重な示唆を与えてくれる著作となるのではないかと今から手に取るのがとても楽しみな一冊です。もうすぐ読書の秋です、皆様もどうか多くの良書との時間に恵まれますように。

アンソニー・ギデنز著、脇坂紀行訳『揺れる大欧州 未来への変革の時』
(岩波書店、2015年10月6日刊行予定)
<http://www.iwanami.co.jp/moreinfo/0254210/index.html>
Anthony Giddens, Turbulent and Mighty Continent: What Future for Europe? (Polity, 2013)
<http://www.livre-europeen.eu/?p=2676>
Le Prix du Livre Européen
<http://www.livre-europeen.eu/>

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン 編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo
〒186-8601 東京都国立市中 2-1
一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局
TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら
E-mail: info@eusi.jp
